

そくたい
束帯
・
じゅうにひとえ
十二単で伝統を継承

平成20・21年度
採択事業

京で開花した貴族文化の粋を世界へ

平安装束体験所

代表 福呂一榮さん
ふくろかずえ



福呂一榮さん

王朝の風情と貴族気分を体感

『平安装束体験所』では、平安朝の貴族がまとっていた束帯（宮廷男子の正装）や十二単（女性の正装）を着て、いにしへの文化に思いを馳せることができます。プロカメラマンによる記念撮影や、婚礼へのレンタルも行い、着物の原型と言える衣装に親しめるのが魅力です。体験する場所にも配慮し、御所の南に位置する町家風の建物に、王朝を感じさせるしつらえを用意しています。

代表である福呂一榮さんが十二単をライフワークとするようになったのは、神社調度品や装束などを製造販売する、装束店に嫁いだのがきっかけです。以来約30年にわたり、伝統の装束やしきたりと関わりながら暮らしてきました。義母から引き継いだ正当な仕立てを守り、「最初はほどくばかりで、夜中に懐中電灯で照らし、義母が仕立てたものを見て研究することもありました。朝から晩まで装束に携わり、15年ほど経ってようやく身に付きました」と言います。

厳しく、「本物」の伝統を伝えるという使命が福呂さんを支えてきたのです。数々の歴史文献を読みあさって時代考証や当時の素材、色、着付けの作法なども研究しました。また、宮中の作法を受け継ぐ衣紋道（平安装束の仕立てや着付けの作法）山科流の研究者としても知られています。



異業種京都まつりでの着装実演（平成21年）

身近に本物の装束を体験できる

福呂さんの本物へのこだわりは、山科流家元や大学の研究者、博物館の学芸員にも広く知られています。葵祭の女人列の着付けに15年以上携わり、上海万博の日本館「源氏物語芸術祭」出展物に衣裳協力。ミラノ万博にも出展を目指すなど、日本有数のプロとして定評があります。

そんな知識と技術を活かし、平安朝の装束をもっと身近に体験してほしいとの願いで、平成20（2008）年10月に設立したのが『平安装束体験所』です。

観光資源の活用

女性起業

もともと、平成13（2001）年にJR東海・京都クラブから「チャレンジしやすい価格で、十二単を着せてもらえないか」と声をかけられ、体験を行ったのが反響を呼びました。それからJTBツアーに採用されたり、口コミで体験者が増えたため、夫の装束店から独立したのです。

福呂さんは、「機会ができたのだから、平安装束の第一人者として活躍した義父母の遺志を継ぎ、正しく本物を伝えていくためには私がやらねば」と考えました。新しいチャレンジに理解が十分でなく批判する人もいましたが、自分が正確に伝えなければという思いが福呂さんを支えてきました。



十二単の装束体験

ビジネスとして成り立たせて恩返しを

「私が始めてから、十二単を着せるお店が増えました。けれども、和裁風仕立ての衣装を、着せるところもあります。せっかく長年装束にかかわってきたのだから、本物の衣装、伝統にのっとった着付けを体験していただくのが自分の使命だと思ったんです」と、福呂さん。例えば袴の色や重ねる色合い、素材などに細かい決まり事があり、着付けも同様に厳格な作法があります。しかも十二単は生地が高価で、仕立てにも多くの手間がかかります。福呂さんが有職故実を研究し、技を身に付けるまでは、家一軒建つほどの費用がかかったそうです。

その後、京おんな塾や京都産業21のセミナーで経営を学び、十二単体験を事業として成り立たせるスキルも磨いてきました。ビジネスの基礎を学び、ファンドに応募して認められたら、本格的にやってみようと思ったとのこと。「応援して下さる先生、そして家族にも、頑張った成果で報いたいんです。単なるビジネスだけではなく、純粋に伝えていきたい。1200年前の人から受け継いだ思いを、装束という形で浸透させたい」。

そして平成20（2008）年度、ファンドに応募して採択。助成を受けて衣装内容やホームページの充実、ホテルや神社とのタイアップ企画、勉強会の開催などを行ってきまし

た。「ハンズオン支援でプロの先生方から適切な指導を受けられたことがたいへんありがたかった」と、福呂さんは言います。



ご家族での装束体験

夢をかなえる総合事業に発展

平成21（2009）年度の助成では外国人向けのサービスをさらに充実させるとともに、衣装提供だけに留まらない婚礼サービスの拡充を目指しました。また、地元産業との協働を図り、束帯など男性向け装束も増やしています。

ホームページには英語版もでき、外国人観光客の反応も上々だとか。京都で結婚式を挙げたいと望む人にも、古都に映える古式ゆかしい衣装で晴れ舞台を飾ることができると好評です。

今後もホームページの充実を図り、旅行代理店や宿泊施設と連携して、京都にこのような体験スポットがあることを浸透させていきます。「世界中の人に十二単を着ていただき、伝統文化の普及に尽くしたい。十二単の体験なら、平安装束体験所だね」と言ってもらえるようになりたい」と福呂さん。また婚礼にも力を入れ、どんな要望にも応えられるよう体制を整えて、ブライダルの総合事業へと発展させていく予定です。

十二単でお客様の夢をかなえながら、平安朝の風情を今に伝え、伝統産業活性化と観光振興を担う役割を果たしていきたいとのこと。

事業概要

平安装束体験所

<http://junihitoe.jp/>

代表：福呂一榮

業種：装束体験、貸衣装

創業：平成20（2008）年

住所：〒604-0831

京都市中京区二条通高倉西入松屋町58

TEL：075-255-1028 FAX：075-231-2217